

## 11/4 福井新聞記事にて紹介されました！

### 9 秒 98 支えた福井の技 —軽量化、ロス低減に貢献—

陸上男子 100 メートルで日本人で初めて 10 秒の壁を破る 9 秒 98 の日本新記録を樹立した桐生祥秀選手（東洋大）が使用したスパイクに、勝山市の織物製造、松文産業（本社同市旭町 1 丁目、小泉信太郎社長）が加工した素材が使われている。軽量化や走行時のエネルギーロス削減を実現するために採用された新素材。福井県の陸上競技場で歴史的快挙を成し遂げたアスリートの足元を、福井の技が支えていた。

繊維大手・東レ（本社東京）から加工を委託されている松文産業機能資材部の吉岡隆一部長(59)は「日本人初の 9 秒台を目指すライバルが多数いる中で、桐生選手が念願の記録を出してくれた。スパイクに我々の作った生地が使われており携わった 1 人として感激。開発者冥利に尽きる」と喜んでいる。

スパイクはスポーツ用品大手アシックス（本社神戸市）製。2016 年、アッパー（甲を覆う部分）に軽量でバネのような性質を持つテキスタイル（織物）「HL-0(エイチエルゼロ)メッシュ」を初めて採用した。「エネルギーロスに繋がる着地時の足とシューズのブレを抑えた」（同社）スパイクとして桐生選手や女子陸上 100 メートル、200 メートル日本記録保持者の福島千里選手に提供を開始。桐生選手は 17 年 4 月からの新モデルで記録を樹立した。素足で履く同選手からは、足に吸い付くようなフィット感や軽量化の実現を評価されているという。

「HL-0 メッシュ」は、アシックスと東レが共同開発。松文産業は東レから織物加工を委託され、12 年から加工技術の確立に着手した。もともと主力とするポリエステル繊維の加工技術を生かして、ポリエステル繊維に東レの弾力性の高い特殊繊維を織り込んだ「高過重に対する伸縮性のある工業用織物」素材を実現した。「糸の組み合わせや織機の改造など試行錯誤を繰り返して、3 年前に形になった」と吉岡さん。小泉取締役(41)は「繊維の世界にはさまざまな可能性がある。新たな分野にも目を向け、地域活性化につなげていければ」と話している。

- 福井新聞 紙面記事より一部引用 -



↑ 桐生選手が使用したシューズの同型サンプル